

高梁市議会だより

第45号
2021年2月

大学生に聞く
「選挙に行こう ZE!
プロジェクト」

高梁の
未来を見据える

高梁市議会新体制スタート

総合計画基本構想・新消防署
有漢地域の学校再編・高梁認定こども園

市民の皆様にと令和3年の新春のお慶びを申し上げます。

重ねて、日頃から議会活動はもとより市政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

昨年の10月29日に議長職を拝命してから早4カ月が過ぎようとしております。この間、議会におきましては「議会のあり方検討特別委員会」を12月議会において設置致しました。文字通り、議会のあり方を俯瞰的に再確認しながら、議員の定数、報酬も含め、今後のあり方について調査研究を進めているところでございます。さて、執行部は職階、職務権限に

よって行政を推進しておりますが、議会は基本的に合議体です。当然、議員各位が意見集約を重ねながら意志決定を行っていきます。その折に、熟議、しっかりと議論することがとても大切であると私は考えています。

熟議を重ねるためには、議会活動の基本的な事柄についても一度見直し、それらを丁寧を実施しながら運営を改善していくことが大切です。

基本に立ち返り、議員個々の能力を向上させ、議会全体の意識改革を進めながら、市民に信頼される議会を目指していきたいと考えています。

そして、もう一つのキーワードは「任せる政治から共に考える政治」で

す。議会としても議会報告会や学生との交流事業など、様々な形でアプローチを試みますが、市民の皆様にも市政や議会の動向について今少し興味関心を持っていただければと思います。そうした中で、厳しい意見はもとより、私たちの能力が至らぬ面については良い智慧を授けていただければ幸いです。

議会だけでなく、市民の皆様とも熟議を重ねることによって、市民と議会が、まさに共に考える自治を実現すること。そのために、18名の議員の力を合わせて精進努力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

高梁市議会議長 宮田 公人



新しくなった高梁市議会 よろしくおねがいします！

副議長 石井 聡美



高梁市としては初の女性副議長を拝命させていただきましたこととなりました。多くの方から励ましのお言葉をいただき、期待の大きさを感じています。

女性ならではの視点というだけではなく、これまでの経験から得た知識を生かして、結果を出していくつもりです。

高校時代の同級生である議長と共に、2年間の重責を果たしていこうと思っています。市民に期待される市議会になるよう、がんばります！

※名前、当選回数、抱負の順に並んでいます



大月 健一 おおつき けんいち
8回
「人間万事塞翁が馬」何が良いか悪いかは、最初からわからないから、一生懸命に頑張ればよい。



川上 博司 かわかみ ひろし
7回
会います、聞きます、届けます
行動第一



川上 修一 かわかみ しゅういち
6回
生活圏の環境整備、福祉の充実、地域産業の育成、目先のことでなく将来を見通した行政を。



倉野 嗣雄 くら の つぎお
6回
地域の発展と市民の皆様の代弁者として活動すること。



小林 重樹 こばやし しげき
5回
行財政改革の推進、新総合計画の推進及び議会のあり方、方向性を検討していく。



宮田 好夫 みやた よしお
4回
無投票を肝に銘じ、議会のあるべき姿を求め頑張る決意です。



三村 靖行 みむら やすゆき
3回
高齢者、周辺地域の皆さんが安心して暮らせる環境づくりに努める。



石部 誠 いしべ まこと
3回
市民・地域により添い、国にも市議会でもはっきりともの申します。



石田 芳生 いしだ よしお
3回
即行動
「人生・仕事の結果
＝考え方 × 熱量 × 能力」



森上 昌生 もりかみ まさお
2回
人口減少、高齢化を前提に、高梁の特色を生かしたまちづくり。



森 和之 もり かずゆき
2回
市民感覚を忘れず、新人議員のつもりで、ブレずに、飾らず、力強く発言していきます。



伊藤 泰樹 いとう やすき
2回
真剣だと知恵が出る
中途半端だと愚痴が出る
いい加減だと言い訳ばかり



小柴 健男 こしば たけお
1回
憲法を生かして、市民の声や願いを市政と市議会にまっすぐ届け、暮らしを応援したい。



新倉 淳 しんくら じゅん
1回
「ふるさとの未来のために」地域の代弁者として頑張ります。



平松 久幸 ひらまつ ひさゆき
1回
議員定数削減に取り組みます。自身の強みの「スポーツ交流」「観光」で高梁市を市民の皆様と盛り上げます。



金尾 恭士 かなお やすし
1回
市民の皆さんの「声なき声」に思いをはせ、市政に反映します。

会派が結成されました

高梁政志会

令和2年12月21日結成

会 長 倉野 嗣雄
幹事長 川上 修一

会 計 平松 久幸
会 員 小林 重樹

作るからには実効性のある計画を

高梁市総合計画基本構想

今議会では、新たな高梁市総合計画基本構想が議案となりました。

これまでの10年間は、「ひと・まち・自然にやさしい高梁」を都市像とした「新総合計画」、平成28年に策定した人口減少対策や地方創生に特化した「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」に基づいて市政運営がなされてきました。

しかし、人口減少や少子高齢化に歯止めはかかっていません。災害からの復旧復興に加え、新型コロナウイルス感染症対策、さらには「Society 5.0」「多文化共生社会」といった新たな国の方針にも対応して

いかなければならないなど課題は山積です。そのため、令和3年度からの10年間を計画期間とする新たな基本構想を策定することになりました。

次期高梁市総合計画の長期人口ビジョンでは、2045年で2万人を維持することとしていることから、人口の自然動態、社会動態の観点から質問がありました。

市長からは、市民アンケート結果において、子育て環境の満足度が高いことから、これからも出産前からのサポートや医療費無料制度を継続し、他の施策とともにPRして行く、特に企業から市内での居住ニーズが高い

ことから、企業ニーズに添えていくとの答弁がありました。

市民の施策に対する満足度や施策の重要度が、前回調査から大きく変化していないことから、市民のニーズに基づく計画では、今後のエネルギー政策の転換や新たな産業革命に対応できるのかとの質問もありました。これに対しては、基本構想を受けて策定する基本計画の中で、社会情勢の変化を取り入れていくとの答弁がありました。

補助金も見直しの対象に

行財政改革

平成30年に策定した「高梁市行財政改革プラン」の一端として、補助金の見直しについて報告がありました。

高梁市では今まで、第一次、第二次高梁市行財政改革が取り組まれていきます。平成30年7月豪雨災害の影響で計画通りに進んでいない項目もありますが、「将来の人口減少を見据えた行財政基盤の確立」をテーマに据えて、改革に取り組んでいます。

今回報告があった補助金の見直しでは、イベントに対する補助金など6分類173件、総額約9億円規模について

て報告を受けました。今後の人口減少社会を見据えたなか、限られた財源のもと効果的・効率的な補助制度にするため、次の4つの視点で見直しが行われます。

- ①事業の公益性（市の行政目的に合致する）
- ②事業の必要性（市民のニーズが高く優先的に実施する必要がある）
- ③事業の効果性（成果が認められる、また期待できる）
- ④団体等の適格性（会計処理などが適切。繰越金が市補助金を越えていない）

高梁の未来を見据える

2021年からの10年間について議会で議論を深めています

新たな防災の拠点どうする？ 高梁消防庁舎整備

平成30年西日本豪雨災害を経験した高梁市、自然災害を含めた消防活動の重要性を改めて認識したのは、記憶に新しいはず。岡山県内に14ある消防庁舎の中で一番古い（昭和46年建設）消防庁舎をどうするのか、平成24年から消防庁舎検討委員会を設置し、8回にわたる検討を行ったが候補地決定には至らなかった。消防庁舎の整備について、令和2年6月の消防庁舎検討委員会にて候補地が決定し、令和2年7月高梁市議会全員協議会に報告がなされました。

消防活動の中で、初期に最も消防力が必要なのは火災であることから、火災への対応を重視し、市街地への設置が必要であり、「川端町地内に消防庁舎を整備する」との報告でした。

議論の中心となったのは、候補地の選定であり、候補地

は平成30年に内水による浸水が発生し、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）でもあるが大丈夫なのか、市街地は雇用や定住のために利用して地価の安価な市街地以外に建設すべきではないか、市街地に整備するのであれば東分駐所を整備すべきではないか、最初から決定した候補地ありきの報告ではないかと議論が交わされました。

完成年度は令和6年度予定、議会としてもこれからの動向を注視していきます。



▲現在の高梁消防署

保育ニーズにどう応えるか 高梁認定こども園新設事業

全国的な少子化の中、高梁市でも就学前の子どもの数は減少していますが、就労を希望する保護者は増加しており、保育園のニーズは非常に高まっています。

就学前教育保育の充実のために、幼稚園・保育園の統廃合や認定こども園化を計画的に進めていくことは、市政の重要課題です。

平成27年に有漢地域・川上地域、平成31年には成羽地域で認定こども園を開設してきた高梁市。令和2年7月の全員協議会では、市街地の高梁認定こども園の整備について報告がありました。

土地を購入するのではなく、現在、文化センター駐車場として利用している明治飼糧跡地の活用「候補地の安全性や利便性」「財源について」「木造建築を望む」という意見など、執行部との議論が交わされました。11月の全員協議会では、保護者や地域団体の代表者、就学前施設で勤務する職員からの意見を取り入れた、比較検討結果が示されました。

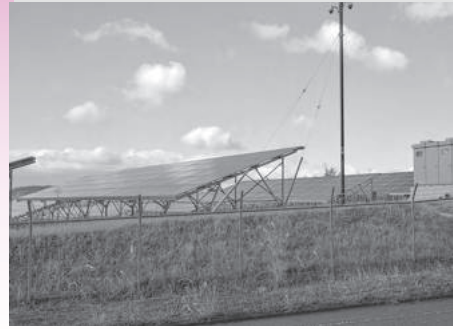
避難所としての役割を担い、安全で安心できる場所、交通・駐車場の確保等が挙げられていること、市の財政状況も考慮し、安全性・利便性・用地取得・経済性・財源確保の観点と比較項目として比較検討を行った結果、「高梁城南高校運動場の東側を建設場所とした」との報告を受けました。



▲高梁保育園



高梁幼稚園▶



▲市内のソーラー施設

人口減少を見据えた施策を推進

市長所信表明

12月定例会は、令和2年9月の選挙後、初めての定例会であったため、市長の所信表明が行われました。

所信の中では合併時に約束していた事業は概ね計画通り進めることができた。今後人口減少が続くとしても、将来を見据えた施策を進め、持続可能な行財政運営をしていく。そのために、「健幸都市

たかはし」を都市像とし、「つながりから創る心豊かなまちづくり」を基本理念とする次期総合計画を策定するとの発言がありました。

一般質問では、今後の重要施策について問われ、市長か

らは、災害からの復旧復興は大前提として、定住、地域医療、光ケーブル網敷設による情報化、住民がふるさにと誇りを持つことができるような

施策、図書館のさらなる活用、就学前教育から高等教育までを一貫して充実させていくこと、地産地消、農業従事者の支援等であるとの答弁がありました。

また、新エネルギーの利用促進について質問があり、バイオマスにしても太陽光発電にしても自然由来のエネルギーに転換していくという方針であるとの説明がありました。

た。

「再び世界一の教育村」を目指して

有漢地域の学校再編

有漢地域には、東小・西小・有漢中があります。令和元年8月有漢地域（有漢の教育を考える会・まちづくり協議会・3校の保護者等）から義務教育学校として一貫した教育を行うよう要望書が出されました。これにより、高梁市教育委員会と有漢地域の代表による「有漢地域の学校再編準備委員会」が設置され、令和元年10月以降4回の会議を重ね、市議会全員協議会に計画

「英語力」「地域ふるさと学習」「陰山メソッドによる徹底反復学習」等がランドビジョンに入っています。100年前の「世界一の教育村」の復活が期待されます。



▲有漢東小学校



▲有漢西小学校

陰山メソッド 百ます計算、漢字の集中学習、音読指導を三本柱として、そこから多様に思考する学習方法。

コロナ禍の影響でふりだしに

旧朝霧温泉「ゆ・ら・ら」跡地活用事業

令和2年5月13日に、市では、株式会社エヌディエスと優先交渉権の覚書を締結し建物等の譲渡契約に向けた協議を進めてましたが、エヌディエス側から、11月11日に優先交渉権を辞退する旨の申し出がありました。辞退の理由は、

株式会社エヌディエス側からは、今回の募集要項の条件

下では辞退するが、内容を再検討の上、再度提案したいとの意向も伺っています。

周辺地域の活性化につながるように、今後、再募集も含め検討を進めたいと考えていると定例会初日に執行部から報告がありました。

12月定例会が開催されました

令和2年12月7日から24日までの18日間、令和2年第8回12月定例会が開催され、市長からは議案12件が提出されました。

議案を大きく分けると、関係省令の改正に伴う条例改正と総合計画基本構想、また各補正予算においては、人件費に関するものと、ふるさと納税、新型コロナウイルス

イルス対応の支援金・物品購入・施設整備等、さらに平成30年と令和2年豪雨災害復旧費、教師用デジタル教科書の導入費用等が大きなものでした。

また、議案ではありませんが、選挙後初めての定例会であり、市長の所信が述べられたことについても活発な質疑がありました。

各議案については、各担当する委員会においてもより詳細に至る審査も行われ、結果としては慎重審議の末、全ての議案を原案のとおり可決しました。

討論

私は、今議会に提出された全ての議案につきまして、委員長報告を了とし、賛成の立場から討論する。

議案第95号には反対、その他の議案に対しては賛成の立場から討論する。

コロナ禍により、雇用不安が深刻化し、中でもひとり親家庭の生活不安は増大している。市の対応は、財政も厳しい中で、市内各種企業、自営業者の経済対策、個別の家庭への生活支援は、間断なく実行していかねければならない。人口減に伴う市民生活の安定を要請する。

議案第94号の市の総合計画の策定については、「高梁市総合政策審議会」井勝久喜会長の附帯意見や、地域説明会、パブリックコメント等を充分に反映し、高梁市の2030年へむけた羅針盤となり、市民にも具体的に見える計画にしたいと

「まいにゃんばー商品券」発行に関わる補正予算は、11月臨時議会で議決された。その際、質疑において、困窮する中小業者支援と、市民の近いところに向いての対応がなされないのであれば、普及率が低くなり、市民全体への支援となり得なくなるため反対する。補正予算は長引くコロナ禍のもとで、換気設備等の新設修繕や、支援延長の関連予算が計上されているが、周知が十分でないものもあり、機会を通じて周知徹底を要望する。

(金尾恭士)

(小柴健男)

12月定例会で賛否が分かれた議案の議決結果

○賛成 ●反対

件名	金尾	平松	新倉	小柴	伊藤	森	森上	石井	石田	石部	三村	宮田好	小林	倉野	川上修	川上博	大月
議案第95号令和2年度高梁市一般会計補正予算(第10号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○

※議長は採決には加わりません。 ※他の議案は全会一致で可決しました。

「議会のあり方検討特別委員会」を設置しました

議員定数や議員報酬については、今までも議論されてきた経緯がありますが、令和2年9月の選挙が無投票となったこともあり、改選後、宮田公人新議長による新体制の議会全員協議会でも議論が再開されました。

特別委員会を設置して協議すべきとの意見。各議員は市民の代表であるから、全ての議員の意見を集約すべきであるとする意見。そもそも何のために議員定数や報酬を検討するのか、むしろ議員や議会のあり方を考えるべきとの意見。過去の定数削減や周辺自治体、有識者の見解も研究しながら進めるべきであるとの意見など、さまざまな意見が出されました。

これを受けて議会運営委員会、設置目的や、調査

研究事項を審議しました。委員からは何のために議員定数や報酬を検討するのか。仮に定数削減するとして、議会基本条例に定める、市民の多様な意見の代弁、市政運営状況の監視、政策立案機能を十分果たすことができるのか、という意見が出されました。

最終的には、議員定数、報酬とともに、議会基本条例の議会や議員のあり方についても検討するために、「議会のあり方検討特別委員会」を設置することとなりました。

初回の特別委員会では、スケジュールの策定、議員定数と報酬については2年以内に結果をだすこと、市民の意見を聞くこと、有識者の講演など調査研究を行うことなど意見が出されま

した。今後、議会広報公聴特別委員会では、審議過程について、議会だよりも含めて広く周知をはかり、市民参加を実現していきたいと思っています。

委員会メンバー

委員長	宮田好夫
副委員長	川上博司
委員	倉野嗣雄
委員	三村靖行
委員	石部 誠
委員	石田芳生
委員	石井聡美
委員	伊藤泰樹

マイナンバーカードの普及促進について

マイナンバーカード

カードは平成28年から交付が始まっていますが、令和2年11月末現在の交付率は全国平均で23%、高梁市は19・63%にとどまっています。国は令和

4年度末でほぼ全国民に行き渡ること目標としており、本市での普及促進策が課題となっています。令和2年11月臨時議会では、地域経済対策とマイナンバーカード普及促進の観点から「まいにゃんばー商品券」を発行することとなりました。

この事業では、令和3年2月15日までに交付申請が確認できた方で1万人分に商品券を発送できる予算を確保していますが、現時点で

約6千人に発送済みです。今後の普及促進のために、受付の体制や、町内会や商業施設での出張申請等について質問がありました。

執行部からは、申請時か交付時には原則として必ず窓口に来なければならぬ。国が示した目標達成に向けて取り組むが、人員や予算の確保が必要でハードルが高い。来年度に体制を整えてルール作りをして行くとの答弁がありました。



大学生が動いた「選挙に行こう ZE! プロジェクト」

吉備国際大学社会科学部 内容を公表することで、政治に興味を持ってもらい選挙での投票につながればと

が選挙で投票することは大切なことだとの思いから、

昨年秋の高梁市長選挙・市議会議員選挙の立候補者にアンケートを渡し協力を求めました。

アンケートは「高梁愛を熱く語って」「10年後の高梁をどのような街にしたいか」「立候補した理由は」「もし宝くじで1億円が当たったら」「若者に一言」の5問。

しかし、市長・市議会議員選挙とも無投票となったため、アンケート結果は公表されたものの、若者に選挙に興味をもってもらい投票へ結びつけることはできませんでした。アンケート結果は現在もネット上に公表されていますので、ご一読ください。

▼意見交換会の様子



立候補者に聞く「宝くじで一億円が当たったらどうする？」

「無投票になって、中途半端に終わったことが残念」

学生との意見交換で新たな気づき

選挙後には議会広報公聴特別委員会が、「選挙に行こう ZE! プロジェクト」のメンバーと意見交換を行いました。

メンバーからはプロジェクトについて「短時間の取り組みで反省もある」「高校生に對するアプローチを大切にしたい」「今後も投票することの意味を伝えて、将来につなげたい」と語ってくれました。

またアンケート結果については「700人を超える方が閲覧してくれた」「高校生や大学生よりもお年寄りの方が多く閲覧された」「いろいろな議員（候補者）がいて多様であった」。他にも「毎日の生活が政治にかか

わっているが実感はない」「政治に興味や関心がないと大変なことになる」「選挙はまじめで堅苦しいイメージがあるが、もっと気軽に投票できることを知ってほしい」「選挙に行く人を増やすよりも、立候補者を増やす必要がある」など新たな意見を聞くことができました。

また「無投票選挙は議員が楽をしているようにみえたが、今回の対話の中で市政に對するひたむきさを感じた」「政治に無関心なのは若い方たちの責任だと思う。しかし関心を持たせるのは政治家の責任だ」といった意見も出されました。



「選挙に行こう ZE! プロジェクト」ホームページ
<http://mirai-so.jp/>



一般質問 ここを聞きました!

宮田好夫

- ・本市の人口について
- ・高梁市図書館について
- ・コロナ禍における小・中学校の対応について
- ・合併処理浄化槽設置事業補助金について

小林重樹

- ・令和3年度一般会計予算について
- ・近藤市長の市政運営方針を問う

石部 誠

- ・新型コロナウイルスの市内への影響について問う
- ・豪雨災害復旧の進捗状況と記録誌発行について問う
- ・日本遺産認定後の吹屋のまちづくり計画について問う
- ・吉備中央町上竹地内に計画が進められている産業廃棄物最終処分場について問う

伊藤泰樹

- ・ウイルス感染症対策について
- ・がけ地の安全対策について
- ・高梁市保育士養成奨学金貸付制度について
- ・住宅取得助成について

金尾恭士

- ・次期高梁市総合計画について
- ・川上医療センターについて
- ・本市の公共交通について
- ・有漢義務教育学校について
- ・市民への災害情報周知のあり方について

平松久幸

- ・イベント等補助金の見直しについて

小柴健男

- ・憲法を暮らしに生かした行政をするべきではないか
- ・認知症徘徊者見守り支援を強化するべきではないか
- ・市道などの生活関連施設の維持管理は市が責任を

川上博司

- ・行政手続きのオンライン化について
- ・行政手続における押印廃止と書面主義の見直しについて

倉野嗣雄

- ・定住対策について
- ・行財政改革について
- ・職員の意識改革について

森 和之

- ・ママ・サポート119について
- ・学校薬剤師について
- ・部活動の再編と外部指導者について
- ・新型コロナの感染に伴う情報拡散と風評被害について

森上昌生

- ・令和2年9月の市長選挙及び市議会議員選挙について

宮田好夫 議員

高梁市図書館の指定管理は 議会と事前に議論を

高梁市図書館をどのように
評価しているか

宮田 高梁市図書館が開館して4年が来るが、市はどのように評価しているのか。

教育次長 来館者は、開館から現在までで215万人となつている。貸出冊数も旧図書館に比べ大きく伸びていて、イベントも年間180回開催されている。また、移動図書館車は60カ所を巡回するなど、市政発展に寄与していて、高く評価している。

今後の指定管理を
どのようにしていくのか

宮田 指定管理期間は令和4年3月末なので、残り1年余りとなった。今後の図書館運営をどう考え

ているのか。

教育次長 引き続き現管理者でお願いしたいと考える。

宮田 年間1億4800万円の指定管理料はどうか。

教育次長 現行の管理料を基本に考えている。

宮田 令和3年度には指定管理の更新に向けた動きがあると思うが、議会と事前に議論するよう要請する。



▲高梁市図書館

小林重樹議員

コロナ禍でダメージを受けている
市内小売業に支援を

令和3年ふるさと納税について

小林 コロナ禍において税収不足を補うため、他自治体が積極的に取り組んでいるのが、ふるさと納税制度の活用と強化である。このふるさと納税の現状と将来の展望はどうか。

政策監 現時点で寄付金額は1億円を超えており、最終目標は1億7千万円としている。また、新たな取り組みとして新たな返礼品の追加や、企画の見直し等を考えている。

独自の支援策について

小林 国は自治体支援として地方創生臨時交付金を創設し、地域経済の再生、休業補償等幅広く使える交付金としている。本市も今年

度は独自の支援策を打ち出したが、来年度においても独自の支援策を予算計上しているのか。

副市長 市独自としての予算計上はしていないが、国の補正予算等の様子を見つめながら、その都度臨機応変に対応していきたい。

小林 市内の小売業、特に飲食サービス業は、このコロナ禍においてかなり疲弊しており、影響がボディーブローのようにダメージを受けている。次年度においても支援は必要不可欠である。ぜひ実施していただきたい。

副市長 その方向で検討する。

石部誠議員

確定申告に合わせ、新型コロナウイルスの
支援策の広報を行ってはどうか

新型コロナウイルス感染症について

石部 医療機関や高齢者施設、学校などで社会的検査が必要では。市民要望に応え、PCR検査を行い、検査費用の負担をできないか。

政策監 まず感染防止策を行い、症状が出てから検査をする。陽性が出てからの対応が国の方針。

石部 国や市の生活や経済支援施策の啓発が少ない。確定申告に合わせて行つてはどうか。

政策監 メール配信や申告においても支援策について提供する。

災害記録誌について

石部 県の災害記録誌には新成羽川ダムの記述が少ない。また避難所やボランティア活動については高梁市ならではの記述が必要と考

えるかどうか。

政策監 ダム放流の記述は外せないが、中国電力からデータ提供を受ける必要がある。また市内の体験記録について取材を行う。

吉備中央町上竹で進行中の
産業廃棄物最終処分場について

石部 津川町佐与谷に流れ込む場所、新たな管理型の産廃場の計画がある。地元説明会も開催されているが状況を把握しているか。

市民生活部長 現在は県からの照会もなく把握していない。

石部 正確な情報収集と、下流域の地域や市民に対して丁寧な説明が必要と思うがどうか。

副市長 市の立場を考え、情報集に努め適切な対応をする。

伊藤泰樹議員

新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金で医療・介護従事者や市全体の底上げを

ウイルス感染症対策について

伊藤 市内経済の疲弊した状態をどう把握しているのか。

産業経済部長 4月～9月は市内事業所の7割が減収。特に観光に關する事業所が最も大きく、売上減少が著しく長期化している。

伊藤 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の、今後の活用は。

総務部長 前向きに検討している。

伊藤 一つは医療・介護従事者、一方で市全体の底上げの実行を重ねて申しあげる。

「がけ地」の安全対策について

伊藤 個人が行う「がけ地」の安全対策工事について、工事の補助

を含め、積極的に取り組むべき。

産業経済部長 「がけ地」に限らず個人の住宅・敷地は原則自己負担。しかし、個々のケースに応じて国・県の補助事業を有効に活用して安全対策を進めていきたい。

住宅取得助成について

伊藤 本市の住宅取得制度の広報と制度拡充をどうされるのか。

市民生活部長 総合的な定住施策のなかで見直すべきところは見直し、時代のニーズを捉えながら充実したものにしていきたい。

市長 住宅政策は喫緊の課題と認識している。新築しようと思つて頂けるような支援助成制度、また他の施策と相まって決断して頂けるようにしっかり取り組みたい。

金尾恭士議員

川上医療センターの評価を問う

川上医療センターについて

金尾 川上医療センターをどのように認識・評価しているのか。

市長 総合計画のアンケートの中にも「重要度が高い・満足度も高い」という記述があつた。地域医療を守つていただいており、高く評価させていただいている。

次期高梁市総合計画について

金尾 市民の要望をどのように把握し、反映させているのか。

市長 市民アンケートの実施・タウンミーティング・各種団体の代表者等から意見の聴取を行い、現在パブリックコメントを実施中である。

有漢義務教育学校について

金尾 有漢義務教育学校については、教育委員会が積極的にリーダーシップを取るべきではないか。

教育長 保護者・地域からの要望があがり、地域とともに進めている。協力しながら、必要な場面では、教育委員会がリーダーシップを取っていきたい。

金尾 陰山メソッドの評価を問う。

教育長 学習に対する意欲・集中力が明らかに向上し、学力調査も年々向上していると認識している。

陰山メソッド 百ます計算、漢字の集中学習、音読指導を三本柱として、そこから多様に思考する学習方法。

平松久幸議員

地域への愛着に大切な役割を担う
イベントの補助金見直しの検討を

イベント補助金見直しについて

平松 運営内容を、運営団体と十分調整しているのか。

市長 地域の皆さんが一生懸命活動をしている。今後、実行委員会組織と話をしていく。

平松 見直しにあたり、市として指導する内容は検討しているか。

市長 事業として続けていくには自主財源が必要。どう確保していくか、運営団体に検討いただく。

平松 今後、目標金額はあるのか。

市長 市民ボランティアだけではなく、最近は専門職種に頼む比重が多くなりつつある。金額がどうこうではなく実行委員会と一番良い方法を考えていく。



▲備中松山踊りなどイベント補助金も行政改革の対象に



小柴健男議員

認知症徘徊者のため支援の拡大を

憲法をくらしに
生かすことについて

小柴 憲法は国の最高法規である。高梁市として、これまでどのようなに生かし、これからも生かそうとしているのか。

政策監 これまでも、憲法がうたう、国民主権や基本的人権、平和主義を市行政に生かしてきた。今後も憲法を尊重していく。

徘徊者見守り支援の強化を

小柴 認知症徘徊者の事件が頻繁に見受けられる。徘徊SOSネットワーク事業をさらに拡大した支援対策が必要ではないか。

健康福祉部長 現在は登録数も少ないので、広報を行うとともに支援連携協定などの拡大も検討していきたい。

市道の維持管理について

小柴 市道の管理責任は誰にあるのか。

産業経済部長 管理者は市である。

小柴 管理者が市であるのなら、市民から出た修繕の要望には応えるべきではないか。

産業経済部長 要望に対して、現在8割程度実施できている。

小柴 生活関連施設は、町内会等の負担を求めず、実施すべきでは。
産業経済部長 財政が厳しい中、現状でお願いしたい。緊急性や優先度を検討しながら、施行していきたい。



川上博司議員

行政手続きのオンライン化を進めるためマイナンバーカードを活用すべき

マイナンバー・ぴったりサービスを活用すべきでは

川上 国に歩調を合わせて、行政手続きのオンライン化の推進とデジタルトランスフォーメーションに取り組むことは当然として、大事なことは今からでも、取り組める可能ながぎりのオンライン化を進めるべきだと考える。今からすぐにでも実現可能な行政手続きのオンライン化を進めるため、マイナンバーカードを活用したマイナンバー・ぴったりサービスを活用すべきではないか。

政策監 ぴったりサービスのメニューでは児童手当、母子保健、保育などは対面で相談が必要となる申請なので活用ができていない。マイナンバーカードの取得率

を上げてオンライン化を進めることが重要であると認識しているので、取得促進の対策として商品券の発行を行っている。今後、職員と市民の情報スキルを向上していく取り組みを行う必要がある。

行政手続きにおける押印廃止について

川上 行政手続における押印廃止と書面主義の見直しについては、どのように取り組んでいくのか。

総務部長 国の法令に基づく押印見直しについては、国のガイドラインが示されてから対応していく。市独自のものが740件あり、現在洗い出しを行っているのので、できるところから早急に見直しをしていきたい。

デジタルトランスフォーメーション「インターネット技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念のこと。

倉野嗣雄議員

職員の意識改革を進めるべき

本市の定住対策について

倉野 最重要課題である定住対策は、人口減と比例して空き家が増えていくと考える。現在の状況はどうか。

民生生活部長 平成25年で総住宅数17680戸中、空き家は4650戸で、全国平均の13・5%の2倍の26・3%となっている。

倉野 空き家を活用できる組織を作るべきではないか。

民生生活部長 田舎暮らし推進係が行っているが、特定空き家とまらないよう力を入れて対応する。

行財政改革について

倉野 人口減や災害また新型コロナウイルスなどで市の財政は非常に厳しい状況に有る執行部は、どのように認識しているか。

市長 市の財政状況から見ても改革は待ったなし。不転の強い決意でやっていく。

職員の意識改革について

倉野 令和2年3月の出馬表明時に、職員の意識改革を掲げたが、今でも考えは変わらないのか。

市長 前回の答弁を変える事はない。やらなければならないと思っている。

倉野 高梁市職員は就職する時宣誓しているが、時が過ぎると、市民全体の奉仕者としての思いが希薄となっているのではないか。

市長 色々な職員研修に参加させているが、管理職を含めて、初めて就職した時の気持ちを持てるような研修を行っていく考えである。

特定空き家 倒壊の危険があるなど、適切な管理がされていない空き家のこと

森和之議員

妊婦の不安解消のためにも 更なる女性隊員の増員を要望する

ママ・サポート119について

森 平成27年度から令和2年度までの救急搬送時において、問題点はなかったのか。

消防長 53件の救急搬送時に2件の車内分娩があったが、母子ともに健康であった。

森 妊婦の不安解消のために助産師の同乗は考えられないか。

消防長 24時間365日、分娩のための救急搬送に対して、助産師を配置しておくのは非常に困難である。現在、1人ではあるが高梁消防署初の女性隊員が県消防学校で救急課程を受講している。訓練を重ねた後には、勤務時に分娩の救急搬送があれば同乗させて妊婦の不安解消につなげたい。

部活動の再編と
外部指導者について

森 妊婦の不安解消のためにも、更なる女性隊員の増員を要望する。

森 生徒数が減少する中で部活動の存続が危惧されている。市としてどう取り組むのか。

教育長 一つの学校で解決できない場合は、地域の方、競技団体の力を借りて学校だけでなく地域で少人数の部活動を支えていきたい。国の方針も令和5年をめどに土日の部活動については地域で子ども達を指導できる仕組みを作ったり、それに対して支援をするといった方向性が示されている、高梁市もその方向性に舵をきっていく。

森上昌生議員

選択肢のない市政を避けるための 市長の見解を問う

選択肢のない選挙を
どう受け止めるのか

森上 3期の市政を担当してこられたが、この度の無投票選挙を、どのように受け止められるのか。

市長 市長選挙と議員選挙では若干おもむきが違う。市長選挙はそれまでの成果を踏まえて無投票もありうるが、その分、責任も重い。議会議員選挙では、さまざまな事情もあるだろうが、議会と執行部が両輪として機能して、市民サービスが成り立つ。課題があると認識し、議会とともに議論、協議をすすめる必要があると考え

こうした状況を再び
繰り返さないためには

森上 市民に選択肢のないダブル選挙を繰り返さない方策を、市長としてどう考えるか。

市長 政治に対する関心が薄れてきている。小・中・高校生議会、女性議会を開催しているのは、意見を聞かせていただくとともに、市役所の仕事を理解し、深めてもらうためであるが、残念ながら、今年はコロナ禍により開催できなかった。こうしたことは人づくりに繋がり、高梁市をこうしたいと思う、それを担っていく人を育てていくことが大事だ。

3月の定例会スケジュール

3/5	金	本会議（議案の上程）
3/11	木	本会議（一般質問）
3/12	金	本会議（一般質問）
3/15	月	本会議（一般質問）
3/16	火	本会議（議案質疑）
3/17	水	委員会
3/18	木	委員会
3/19	金	委員会
3/24	水	採決

※3月議会への請願のしめ切りは
2月25日までです。

※日程は変更となる場合があります。正
式な日程は決まり次第、ホームページ
でお知らせいたします。

政治家の寄付は禁止！ 有権者が求めることも 禁止されています！

公職選挙法により、市議会議員が
選挙区内でお中元やお歳暮、ご祝
儀を出すことは禁止されています。
市民から求めることも禁止です。



編 集

委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	副委員長	委員長	議会広報・公聴特別委員会
員	員	員	員	員	員	員	
平 久 幸	新 倉 淳	金 尾 恭 士	石 井 聡 美	石 田 芳 生	石 部 誠	森 和 之	伊 藤 泰 樹

「選挙にこう ZE! プロジェクト」 計画した大学生に話を聞きました!



吉備国際大学の学生さんたちは、高梁市の政治を
どんな視線でとらえているのでしょうか。

「高梁市は故郷と変わらない田舎加減」「静かで勉強できる環境」「備中松山城はおいしいちゃんから聞いた」「高梁市が好きで高梁に就職が決まりました。」等々、「選挙に行こうぜプロジェクト」実行委員会(吉備国際大学)の方たちと意見交換をしました。

留学生アンドリさんは、「インドネシアでは日常で議員と話をすることなどなく、今回の立候補者に聞くプロジェクトに参加できて大変うれし」と語る半面、また「選挙が無投票

票に終わったことは残念だ。政治に無関心なのは若い方たちの責任だが、関心を持たせるのは政治家の責任では」と日本人学生さんとは違う切り口で意見も。

「若者は政治に無関心である」との意見については「政治が毎日の暮らしにかかわっている。若者のネットの書き込みを見ても関心があるのは明らか」「政治に無関心と選挙に行かないのは別問題である」という指摘もありました。

また「小学校の社会の授業で政治や選挙について勉強したが内容については覚えていない」方が多数で、政治や教育のあり方まで問われた「選挙に行こうぜプロジェクト」の意見交換会でありました。

9 ページに関連記事

今号の表紙

災害復旧現場を 小学生が見学

玉川小学校の4、5年生の児童が、市道玉川落合線の災害復旧工事現場を社会科の体験学習で見学に行きました。施工会社から、工法の説明を受けて、吉備ケーブルテレビの取材に、元氣よく笑顔でインタビューに答えていました。



▲水行の様子

令和2年の議員改選に伴い議会広報公聴特別委員会も新たな体制となり初の議会だより発行となります。この原稿を執筆している令和3年1月の時点では、未だ新型コロナウイルス感染症拡大の終息は見えず、成人式や消防出初式等の行事が延期や中止を余儀なくされています。昨年末、個人的に市内の寺院に参拝し、「水行」を行い、厄災消除・無事故無火災を祈願して参りました。これからも、市民が必要とする情報をお届けできるよう活動していきます。よろしく
お願いいたします。(石田芳生)

あ
と
か
き